



2009年名誉理事長推戴時の宮坂先生

## 宮坂忠夫名誉理事長追悼号に寄せて

日本健康教育学会理事長 衛藤 隆

2013年7月11日に逝去された宮坂忠夫先生の追悼号を発刊することについて編集委員会を中心に関係者において検討を進めて来た結果、本号の発刊がこのような形で実現した。本学会の創立の中心的存在であった宮坂先生を追悼し、併せて生前のご業績の一部にも触れることの出来るような企画がなされている。皆様お一人おひとりの思いとともに、本学会を産み育ててくださった宮坂先生の歩みをたどることが出来れば幸いである。

私は宮坂先生から日本健康教育学会の理事長を2005年に引継ぎ現職にあるが、その立場で個人的な出会いについてふれておきたい。1970年10月に私は東京都目黒区駒場の東京大学教養学部から文京区本郷の医学部保健学科に進学したのであるが、この時の学科主任（当時の役職名）をお務めだったのが保健社会学講座の教授でいらっしゃった宮坂先生であった。おそらく、この約半年前に教養学部で開かれた進学ガイダンスでお目にかかったのが最初の出会いであり、私は20歳そこそこであったと思う。既に米国にて Health Education について研鑽を積み、国立公衆衛生院等での研究成果を背景になされた講義は当時の私のレベルでは難解に感じたが、大変高度な内容であった。千代田村をフィールドとしたコミュニティ・オーガニゼーションはじめ、数々の先進的取り組みの成果が講義を通じて紹介されたことをよく覚えている。

その後、私は卒業し、医学科に学士入学し、臨床医の道、公衆衛生研究を経て、1995年に東京大学教育学部に健康教育学分野を担当する教授として赴任した。赴任後間もなく本学会の会員となったが、この頃より再度宮坂先生とお目にかかる機会が時々あった。ご著書を頂戴したり、本学会の黎明期のお話をしていただいたり、私を陰に陽に支えて下さった。この場を借りて感謝申しあげる。

おわりに、日本における健康教育学の学会創設と研究の発展、また学徒・研究者の育成に生涯にわたりご尽力された宮坂忠夫先生のご冥福をお祈り申し上げます。